

現代彫刻の歩み **モノづくりの逆襲**

この展覧会は、「現代彫刻は時代精神の造形表現である」という考えのもと、近年爆発的にヒットした食玩（お菓子のおまけ、フィギュア）の精巧で小さな造形物に着目し、そのフィギュア造形の視点から日本の現代彫刻を新たにとらえ直してみる試みです。

また、写し身と情念という人形造形固有の視点からフィギュアと現代彫刻の表現について新たに見つめ直すもので、1 アート（彫刻）、2 フィギュア（食玩、カプセルトイ）、3 人形、4 彫刻「大魔神」の四部門の構成です。

今から 30 年前、中世の絵巻物に描かれた地獄や餓鬼の姿に感銘し、その姿を新しく彫刻につくりあげた人がいました。彫刻家、細川宗英（1930 - 1994）です。髪火流、雲火霧、雨炎火石地獄など地獄餓鬼シリーズ 11 点、他に俵屋宗達の絵を立体にした「風神・雷神」を含め計 18 点の出品となります。他に彫刻は、山本正道、三澤憲司、藪内佐斗司、太郎千恵蔵、杉浦康益、西村盛雄、塩崎由美子、古郡弘、西雅秋、岡崎和郎、野村和弘の出品です。

食玩メーカーとして知られる海洋堂は、1964 年、模型小売店として出発。70 年代にはガレージキット（少量生産のマニア向けの模型）へ転向し、80 年代から 90 年代には完成度抜群のフィギュアにより世界一の造形メーカーとなりました。海洋堂のつくる食玩フィギュアに見える精巧さ、大胆な空間表現は、この長いガレージキット時代に培われた精神と技術が生きています。食玩、カプセルトイを中心に約 1700 点の出品となります。

アート（現代彫刻）とホビー（フィギュア）のモノづくりへの狂おしい気迫、彫刻の深い精神性、細部に神が宿るフィギュアの緻密さと底抜けの明るさを存分に味わってください。

人形は、重要無形文化財「衣裳人形」保持者、平田郷陽（1903 - 1981）と野口園生（1907 - 1996）の出品。今日忘れかけた日本の情緒を思い出させてくれます。

最後に、今回、角川映画の特別協力により映画「大魔神」（大映 1966 年）が 38 年振りにアート（彫刻）となってよみがえります。彫刻家・三澤憲司 & 造形師・八木宏の制作です。この展覧会を通して、来館者のみなさま一人一人が、日本人の心の原風景にひたっていただければ幸いです。

2004 年 10 月 16 日（土）～ 11 月 27 日（土） 県民ホールギャラリー

開館時間 9：00 - 18：00（最終入場は 17：30）

* 休館日 10 月 18 日（月）、11 月 1 日（月）、11 月 15 日（月）

入場料 一般 700（600）円 大学生 500（450）円

*（ ）内は前売り、20 名以上の団体 65 歳以上及び高校生以下無料